

平成 25 年度山口市市民活動支援センターさぼらんて事業報告

(第 4 期 3 年目 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

I 平成 25 年度 さぼらんて報告 ダイジェスト

活動の見える化！

■登録団体ののべ情報発信数

1,448←1,158 (H24)

■さぼらんてHPアクセス総数

113,536←92,782 (H24)

昨年に引き続き、映像づくりやブログサロンなどビジュアルな情報発信の支援に力を入れた。現在さぼらんての登録団体は、293 団体。これらの団体は全て、さぼらんてのホームページ上の「まちサポ広場」に基本情報がアップしてあり、その中で恒常的に独自のブログやHPで情報更新している団体は、41 団体（昨年度 34 団体）2 割余りに留まっている。



さぼらんてのホームページのアクセス数は、年々増加し、2 万件増の 113,536 件となっている。今後も個性豊かな団体ニーズに寄り添いながら、市民活動の見える化を促進し、地域社会の活性に向けて貢献できる市民活動を増やしていきたい。

ネットワーク！

■大交流会参加者

100 人←61 人

第 4 回目となる市民大交流会（協働ラウンドテーブル）は、地域コミュニティ 13 地域、市民活動団体 25 団体から合計 100 名が集まり、～ご近所の底力ネットワーク～「みんなを笑顔にするしかけ」の話し合いを行った。1 時間余りのワークショップで 16 個のしかけのアイディアの発表があり、今後の市民活動と地域コミュニティの連携の可能性やヒントを感じた 1 日となった。参加者アンケートからは、ワークショップの活用については好

印象だが、アイディアの具体的な実現に向けて市民活動団体と地域コミュニティの連携は、まだ道が見えていない状態。

今後も①ワークショップの体験②市民活動、地域コミュニティの交流として、地域づくり支援センターと連携しながら、地域・社会課題解決に向けてつながりづくりをしかけていきたい。



また、被災地を風化させないために、山口からでもできる東日本支援として、イベント時にチャリティカフェを行い、広く市民を巻き込んだ寄附 43,500 円を山口から被災地を応援し続けている団体に配分した。

NPOの 運営力！

山口市のNPO法人の

■寄附金合計

1400 万円

(寄附金収入のある 29 法人合計)

前年比 500 万円増

■合計収入額

12 億円

前年比 3000 万円増

■報告書 1 P のみ団体

48 %

32 / 67 法人

企業×NPO
寄附つき商品プロジェクト

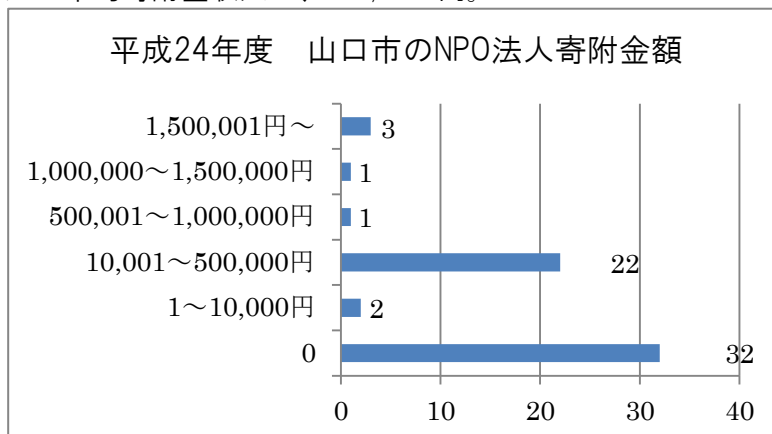
支え人。

5 企業×3 NPO 法人

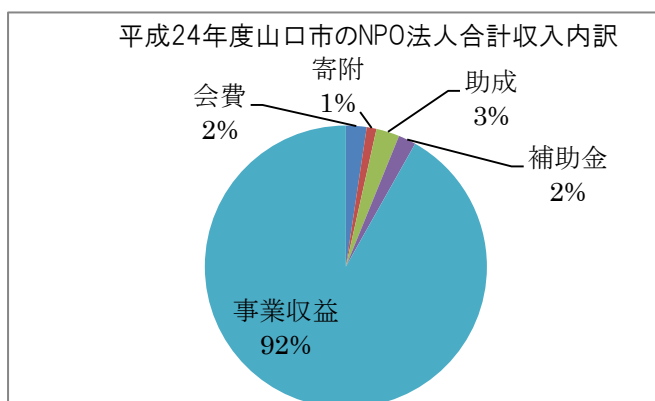
山口市のNPO法人の実態を知るために、「山口県NPO法人データベース」に開示してある情報を整理し、分析。

山口市内の 74NPO 法人（平成 24 年度末）のうち寄附金収入のある 29 法人の寄附金額の合計は 14,007,476 円で昨年より 500 万円増と 1.6 倍の伸び。

寄附金額の実態は下記のグラフのとおり。寄附金収入のある法人の平均寄附金収入は、483,016 円。



市内 74 法人のうち、事業報告書が提出されていない 7 法人を除いた合計収入額の内訳は下記のとおり。



< H 2 4 山口市NPO法人合計収入内訳 >

項 目	金額（円）
会費	29,685,040
寄附	14,007,476
助成	33,385,929
補助金	25,273,991
事業収益	1,150,572,253
合 計	1,252,924,689

NPO法の意義の一つである情報開示力について考察してみると、報告書が 1 ページのみの団体が 32 団体（48%）にものぼる。平均は 4 ページ。まだまだ、市民にわかりやすい情報開示への意識は薄いと感じる。

今後、新しい公共の担い手として社会的信頼の得られるNPOをめざし、「非営利組織のマネジメント力」を強化支援していくために、企業×NPOの寄附つき商品づくり「支え人。」プロジェクトを立ち上げ、NPOの多様な財源確保の仕組みづくりに取り組んだ。

Ⅱ 委託契約に基づく事業報告

契約書に基づき「施設管理機能」「普及・啓発機能」「相談機能」「人材発掘・養成機能」「事務局支援機能」「ネットワーク機能」別に事業展開。

1 施設管理

山口市巾商店街へ設置された拠点機能（ハード）を活用した支援機能（ソフト）となるため、市民活動団体への支援を中心に幅広い利用者を想定し、下記の対象別エリアを設定し対応。

【対象別エリア】

○市民の自由な情報交差点（入口オープンスペース）

一般市民が自由に入館でき、情報収集しやすいレイアウトに。また、入館しない市民へも配慮し、ショーウィンドーも活用した。

○団体の自由な活動形態を応援（会議室・2階ワークスペース・和室）

会議・講座はもちろん、専用事務所を持たない市民活動団体の作業場としても、出来る限り活動しやすい方法で柔軟に対応。

○気軽に相談できる場（1階拠点管理事務スペース）

職員に気軽に相談できる雰囲気을大切に、登録団体との情報交換や気づきの共有を心がけた。



（1）開館日

水曜日及び年末年始（12/29～1/3）を除く毎日

◇開館日数 313日

◇閉館日数 52日

※商店街の夏祭り（祇園祭り、ちょうちん祭りの水曜日は開館）

（2）開館時間

平日・土曜日 10:00～19:00

日曜日・祝日 10:00～18:00

※利用団体の10時からの講座や会議等の準備に合わせて、9時より対応可能とした。

（3）各種手続き書類の配置

①市民活動団体向け

- ☐登録市民活動団体への提供サービスのしおり
- ☐市民活動団体登録用紙
- ☐会議利用報告書
- ☐印刷機利用カード
- ☐機材借用書（貸出）
- ☐持込みイベント申込書・報告書
- ☐インターネット使用簿

②内部用

- ☐相談カード
- ☐機材貸出予約簿
- ☐日計表（日別集計表・累計表・月別平均表）
- ☐職員業務日報

2 普及・啓発

積極的に情報収集を行い、NPOの意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切にし、拠点を活用した情報発信も市民団体行事予定カレンダーを作成するなど、来街される方への普及・啓発も強化。ホームページの情報集積にも力を入れた。

市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校への配布。

（１）市民活動に関わる情報の収集及び整理

①山口市内の市民活動情報

団体ごとの個別ファイル作成

②NPO支援情報

③市外の市民活動情報

上記種類の市民活動に関する情報をファイルし、閲覧できるよう整備。

また、団体向けには年間助成金一覧表を、分野別、締切別に作成し掲示。

（２）広報紙の発行

殆どの団体が人材不足の課題を抱えているため、市民向けの啓発紙にも力を入れ、市民と市民活動をつなぐ発信に力を入れた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にした。

①助成金情報

身近な助成金を中心に隔月発行。併せて、希望団体にはメールで情報提供。

【対 象】 市民活動団体向け 隔月発行

【発行部数】 600部

【形 態】 A4サイズ 両面 手刷り

②ええやん新聞

誰もが笑顔で安心して暮らせる山口に向けて、気づき・考え・行動する市民を増やすことを目的に、新たな一步を踏み出すきっかけとなるように発行。市民目線を大切に、発行前モニタースタッフに記事を読んでもらい、頂いた意見を記事づくりに反映。

懸賞つきハガキでアンケートを行い、読者とのコミュニケーションも行う。

【対 象】 市民向け 年2回発行

【発行部数】 8・9号 各30,000部

【配布先】 市内幼稚園・保育園、市内小学校・中学校、企業、学校

【形 態】 タブロイド判 カラー印刷

【テーマ】 **8号** ええやんピープル 活動のきっかけ、ターニングポイント
ひきこもり親の会へのインタビュー・コラム

市民活動で自然体験
健康レシピなど

9号 市民活動女子の対談

密着市民活動

寄附付き商品の紹介

新たなしくみづくりコラム



③活動インフォメーション

【対 象】 市民向け 隔月発行

【発行部数】 1200部

【形 態】 A4サイズ 両面 手刷り

(3) ホームページ及びまちサポ広場（旧電子図書館）の維持更新

HP上における支援と情報集積をめざし、団体のブログを反映できる機能や、電子図書館一覧に情報発信の詳細を加え、団体の活動の見える化に努め団体の情報発信数は1,448件（前年度比290件増）と増加。また、独自の講座などは、わかりやすく講座レポートとして発信するほか、随時お知らせとして新着情報を広報。

また、SNSと連動して発信することにより、アクセス数も113,536件（昨年度比20,754件増）と大幅に増加。



①ホームページ

	H25 年度	H24 年度	H23 年度
アクセス数	113,536	92,782	69,828
アクセス実人数	36,889	27,518	23,388

②まちさぽ広場（電子図書館）の市民活動団体利用

登録団体の基本データは全て掲載。

	H25 年度	H24 年度	H23 年度
利用団体	293	128	181
ブログ反映機能 利用団体	34	27	16
年間記事数	1, 448	1, 158	158

③さぼらんで職員ブログ（さぼろぐ）

職員を始め、広報スタッフ、学生スタッフからのみずみずしい視点の情報も掲載。

	H25 年度	H24 年度
記事数	71	100
アクセス実人数	8, 045	7, 636

④SNS（Facebook）の活用

	H25 年度	H24 年度
記事数	92	164
いいね数	318	177

（４）情報交流コーナーの活用（「さぼらんで」前面フロア）

○NPO法人情報コーナー

○助成金コーナー

○市民活動紹介コーナー

などを設置し、市民が入りやすいようにレイアウトを工夫するとともに、市民活動等に関する情報を分野に分け、見出しやコメントをつけて掲示し啓発。

（５）マスコミ等の活用

①報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを行い、新聞記事やTV ニュースに多数取り上げられた。

②サンデー山口や、商工会議所の会報、商店街広報誌にもコラムや記事を掲載。

（６）東日本支援チャリティ

被災地を風化させない、誰でもできる、山口からでもできる東日本支援の参加の方法を提案。さぼらんでのイベントなどでチャリティカフェなどを行い、その収益金を山口から東日本支援をしている団体に寄附。

①寄附金総額 43, 500円

②寄 附 団 体 リす会山口（被災地写真洗浄）

山口災害救援（防犯ブザー、松の苗木プロジェクト）

福島～山口命の会（福島の子ども保養プロジェクト）

※上記3団体は、ブログ等で活動報告・会計報告等を発信。

③配 分 方 法 2月11日市民大交流会にて贈呈

- ④広報PR 2分程度の団体紹介の映像を作成し、Youtubeに投稿しHPでも閲覧できるようにし、贈呈式の大交流会でも上映した。



（7）市役所ロビー展示

転出入で市民の出入りの多い3月末から2週間、市役所ロビーに市民活動団体ポスターや、パンフレット、広報紙を設置した。

3 相談

市民活動支援の基本を相談に置き、多様な相談に対応。特に運営相談は、ネックポイントをつかみ必要な場合は専門家と連携し、誠実な対応を心がけた。

また、商店街に設置されていることから、市民からの活動相談等も半数近くを占め、個人の活動への支援も行う。

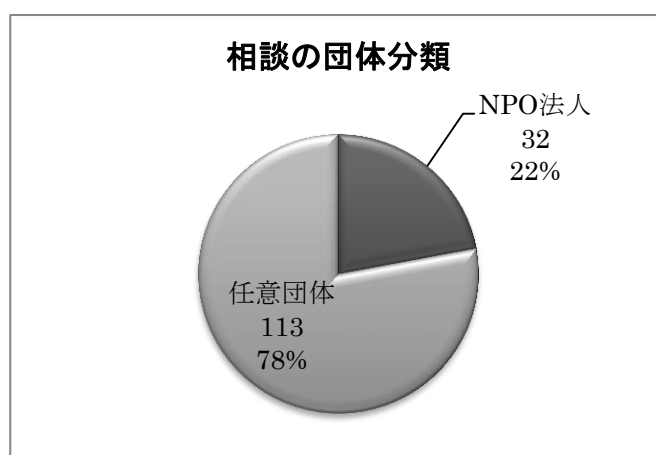
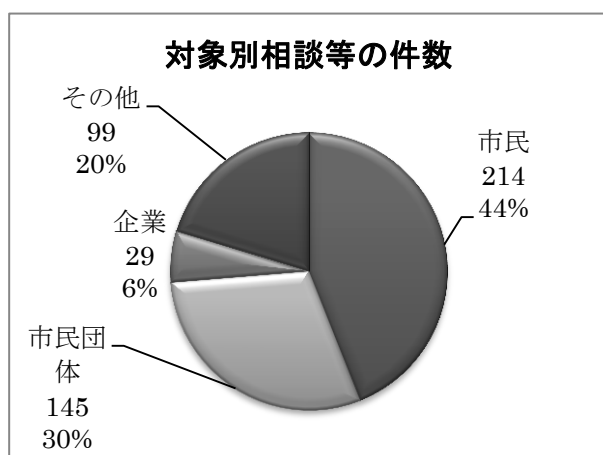
（1）相談・問い合わせへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のための相談に応じ、助言を行い内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

○相談件数 321件（来所 245件、電話 76件）

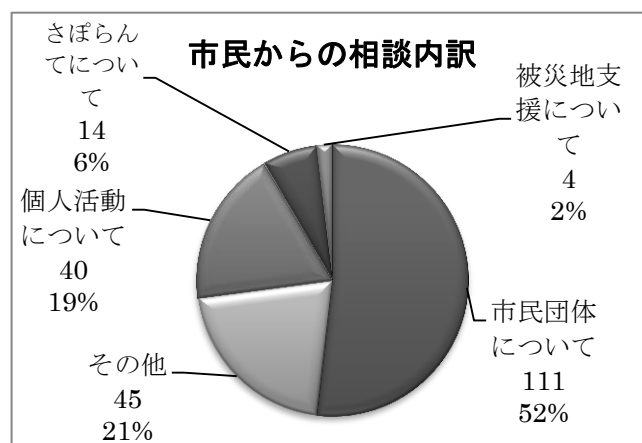
○問い合わせ件数 410件（来所 297件、電話 113件）

※職員の相談カードに記載された特記事項のあるものの件数は487件（グラフ集計総数）



（2）相談・問い合わせの内容の一覧化

寄せられた相談・問い合わせ内容を一覧化し、NPO法人等対象別に相談内容を取りまとめ、分析し相談内容の予測を行うとともに、必要な情報や知識等の蓄積に努め、相談対応に反映。



4 人材発掘・養成

これから公共を担っていくために社会的信頼を得られるように運営力の基礎や市民とのコミ

コミュニケーション力（情報発信力）を重点的に支援。また、山口県の寄附文化醸成事業を活用し、NPO法人の多様な財源確保・マネジメント力を支援。

全ての講座等において、講座レポートをホームページにアップし、団体の支援情報として蓄積していった。

（１）１５秒CMづくり講座

１５秒という限られた短い時間で自団体のセールスポイントを絞るための、専門性や理念を整理する作業を通じて伝えるスキルの向上、マネジメント能力の向上を期待して開催。

【内 容】 第１回 ６月２９日（土）１３：００-１６：３０

- ①自分たちの課題を見つける
- ②「誰に」「何を」伝えるか整理
- ③動画編集の手法を学ぶ

第２回 ７月１３日（土）１３：００-１５：３０

- ①前回の振り返り
- ②作品発表
- ③手直し

講師：河口 隆氏



【参加団体】５団体８名

【成 果 等】出来上がった映像は、Youtube に投稿し HP 上でも閲覧できる。また、山口市の協働セミナーの開演前に上演。

ブログの情報発信指標の「映像活用」が６団体に増。今後も声掛けし継続支援していきたい。

（２）情報発信充実講座

市民団体が支援者や寄附、助成金を集めやすい環境を作るには、インターネットを活用した情報発信が不可欠。コストのかからないブログを公式 HP にし、情報を蓄積し、団体のマネジメント力の向上を期待。また、整理した情報をターゲットに合わせて内容を選別、選定しパンフレット作成につなげた。

【内 容】○団体ブログのキホン

日 時：１０月１９日（土）１０：００-１２：００

講 師：千々松 葉子氏（パインワークス：システムエンジニア）

参加団体：７団体１０名

○ブログを公式 HP へ

日 時：１１月１６日（土）１０：００-１２：００

講 師：千々松 葉子氏（パインワークス：システムエンジニア）

参加団体：７団体９名

○パンフレット作成

日 時：１２月７日（土）１３：００-１６：００

講 師：小柳 明子氏（NPO 法人市民プロデュース）

参加団体：５団体７名

【成 果 等】ブログづくりの内容はさぼらんてのブログに「CANPANマニア」（講師プロ

グ)としてリンクが張っており、いつでも閲覧できるようにした。これによりブログ活用団体が7団体増え、基本的活用のイベント等の告知が2週間前に行える団体が25団体(昨年比19団体増)となった。

(3) NPO 入門講座

山口市の市民活動促進事業の交付を受けた団体を対象に開催。一般市民の参加も2名あり。

日 時 11月14日(木) 10:00-12:00

講 師 渡邊洋子(さぼらんて)

内 容 NPOの意義、NPO法の経緯、めざす社会

参 加 者 9名

成 果 等 アンケートでは、参加者全員が、NPOの意義やNPO法への理解を深めることができたと回答。

(4) NPO のマネジメント力向上(山口県寄附文化醸成事業)



NPO 法人がミッションやビジョンを整理し、企業や市民のニーズや視点を的確に押さえ、マネジメント力を向上するために、寄附つき商品づくりを切り口に支援。

【参加 NPO 法人】認定 NPO 法人こどもステーション山口

NPO 法人あっと

NPO 法人支えてねットワーク

【講師・コーディネーター】久津摩 和弘氏<地域福祉ファンドレイジングネットワーク共同代表>

【協力講師】中村 伸一氏<やまぐち総合研究所所長>

【アドバイザー】井野口 房雄氏((株)社長室)

田村 健児氏(西京銀行)

【内 容】

～NPO法人の基盤づくり～

①8月26日(月) NPO のビジョン・ミッションの整理

講 師: 中村伸一氏

参加者: 8名

②9月9日(月) 非営利組織のファンドレイジング～寄附つき商品概要～

講 師: 久津摩和弘氏

参加者: 8名

③9月25日(水) 共感を呼ぶプレゼン

講 師: 久津摩和弘氏

参加者: 10名

～企業とNPO法人のほっとけないサイクル～

④10月10日(水)

NPOの企業に向けてのプレゼンテーション会



参加者：35 名（NPO 法人 12 名、企業
13 社 15 名、その他 8 名）

⑤10 月～12 月 寄附付き商品づくりワーク
（1 回 2－3 時間）
のべ 11 回開催

⑥12 月 11 日（水） 寄附つき商品報告会
参加者：37 名

（NPO 法人 12 名、企業 10 名、
メディア関係者 5 名、その他 10 名）

⑦2 月 24 日（月） 振り返り報告会
参加者：12 名（NPO 法人 7 名、企業 6 名）



※④～⑦コーディネーター：久津摩和弘氏

【参加事業者】（株）メルシー
（株）モリイケ
（有）BAY TOKYO
ナチュラルセラピーブルー
オリジナルフラワーブレンドティーRingLink

【成 果 等】3 NPO 法人と 5 事業所による、15 種類、1 企画の寄附つき商品ができあがった。
寄附つき商品は「支え人。」としてパンフレットを作成し、市内各所に配布。事業者と NPO 法人の有機的な関係は現在も発展中。また、寄附つき商品に至らなかった事業所でも就労支援などの副産物もあった。

（５）NPO 法人支援

①訪問サポート （おでかけさぼらんて）

専門家等とも連携し、NPO 法人を訪問し、NPO 法人が社会からの期待に応えていくための、多様な財源確保に向けて、組織運営強化のポイント、収益事業の可能性などマネジメントに向けてのアドバイスを行った。また、新規に NPO 法人格取得をめざす団体の勉強会でアドバイス。
3 団体へ 5 回の訪問。

②アワードへの推薦

山口県民活動パワーアップ賞への法人推薦（2 年連続推薦団体が受賞）、助成金申請の推薦も行う。山口市の平成 25 年度パワーアップ賞受賞団体 認定特定非営利活動法人こどもステーション山口。

③法人行事への参加

案内のあった記念式典などの法人行事に参加。

④山口県 NPO 法人データベースより、山口市の NPO 法人を抽出し、寄附金の現状や会計規模を整理、分析。

5 市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

(1) 市民活動団体登録制度の運用

○25年度末 登録団体数：293団体（前年度275団体）

新規登録団体数：19団体

登録抹消団体数：3団体

(2) 登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

○団体BOX利用

要望のあった団体に、その都度設置しました。

利用団体数：91団体

○印刷機材の提供

利用件数：339件

利用団体数：58団体

○会議室の提供

利用件数：477件（のべ484件）

※会議室利用と同時に託児用などで和室を利用している場合などは
べ数値に反映

利用団体数：37団体

○市民活動団体持ち込みイベントへの提供

利用件数：35件（延べ利用日数96日）

利用団体数：15団体

②事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。

利用件数：17件

③広報支援

ア.「さぼらんての広報紙」同封送付サービス

「さぼらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。

なお、送付作業への協力を得ることで、協力団体同士の情報交換を併せて実施。

○利用団体数：延べ39団体（発送作業が隔月となったため半減）

イ. マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行いました。

ウ. ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持ち込まれた、団体のイベントちらしなどの情報は全て、ホームページの団体行事カレンダーに反映し、1週間分の行事ごとにさぼらんてショーウィンドー前面に掲示した。

④機材貸出による支援

貸出機材件数：127件

□ワイヤレスマイク一式	12件
□マルチプロジェクター	41件
□スクリーン	28件
□パネル	5件
□丸椅子	11件
□長机	9件
□その他	21件

6 ネットワーク

団体の主体性を尊重し合い、有機的な効果を生み出すための自発的なネットワークづくりができる環境づくり心がけました。また、今年度は特に企業とも連携し、新たなネットワークも広げた。

(1) 市民活動団体との関わり促進

①市民活動団体大交流会（山口市協働ラウンドテーブル）



地域・市民活動団体・行政とのパートナーシップを図り、誰もが心豊かに暮らせる協働のまちづくりを推進するためのはじめの一歩として、市民活動団体と地域コミュニティの対話の機会を提供。

参加者アンケートでは、「新しい発見があった」「今後も参加したい」と回答された方が8割以上あった。少数ではあるが、「地域活動と市民活動の温度差」を課題としてあげられた方もあり、今後は開催にあたって地

域コミュニティの意見を取り入れプログラムを検討したい。

○テーマ まちの課題を解決 ～ご近所の底力ネットワーク会議～

○開催日時 2月11日（土）13:30～16:30

○場所 防長青年館 大ホール

○参加者 市民活動関係者 46名（25団体）

地域関係者 25名（13地域）

市民 10名

行政関係者 10名

さぼらんて関係者 9名

（合計 100名）

○内容 □山口市提案型モデル事業について

□市民団体ポスターセッション（12団体）

□グループワーク

ア 自己紹介

イ あなたの活動は誰を笑顔にする？

ウ その活動を地域に取り込むには？

エ 事業企画の発表

オ 事業企画総選挙

○事前会議 □山口市担当課、地域づくり支援センターとの事前打合せ 3回



②夏休みこどもまつり

さぼらんてをまだ知らない子育て世代に、理解を深め、参加へのきっかけをみつけてもらうために気軽な市民啓発イベントを開催。

○開催日時 7月26日(金) 11時～16時

○参加協力団体 12団体

○参加者 420名

※当日のランチはチャリティバザーとして東日本支援をしている団体に配分

③多様な主体とのネットワークづくり

- ・ 団体が行うイベントへの参加協力を可能性のある団体に声かけ
- ・ 企業が進めるソーシャルビジネスグランプリ説明会(山口エリア)の共同開催

(2) 関係機関・団体との関わり

① 市民団体行事への参加

団体主催のセミナーや、行事に参加し、ブログ等に紹介していきました。

② Yucca サロン(大学との関わり)

山口県立大学地域交流スペース Yucca と連携して、市民活動団体と学生との出会いの場を創出。

○3回実施 参加学生のべ26名

③ 企業との連携

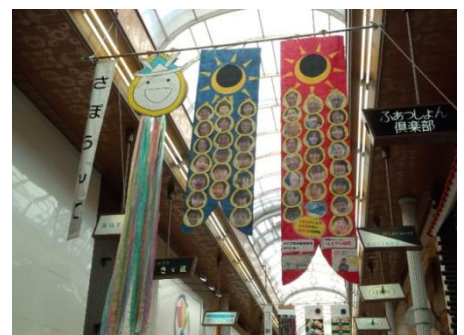
企業の社会貢献の促進に対して、該当団体に参加案内をし、報告会などに参加していきました。また、団体と共にダイアログにも参加し、それらの様子をブログ等に紹介しました。

④ 商店街との連携

商店街のイベント時に参加団体を調整したり、ペナント張替などに協力。また、商工会議所の広報紙にPR掲載。

中心市街地活性化への意見交換会に参加。

どうもん商店街恒例のこいのぼりを、来館者の笑顔写



真を撮影し作成。

⑤ 視察等の受け入れ

○平成25年11月9日（土） 下関市阿川地区社会福祉協議会 13名

○平成25年1月27日（月） 丸亀市政策研究グループ 5名

○小学校や商店街、NPOの活動への受け入れ 5回

⑥ 関係各所との連携に向けて、以下のとおり関係会議等に参加。

【市民活動支援県域会議】

会議名	主 催	月 日	場 所	参加数
県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	5/23	柳井文化福祉会館	1名
県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	10/10	パルトピア山口	1名
県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	3/20	カリエンテ山口	2名

【審議会等】

会議名	主 催	月 日	場 所	参加数
山口県立大学ドリームアドベンチャープロジェクト報告会	山口県立大学	1/23	山口県立大学	1名
やまぐち県民活動パワーアップ賞選定会議	山口県県民生活課	8/27	山口県庁	1名
山口県民活動シンボルマーク選定委員会	山口県県民生活課	10/2	山口県庁	1名

Ⅲ 運 営

1 職員体制

職員の内外研修により資質向上に努めるとともに、定期的（毎月）ミーティングにおいて、事業企画や課題への意見交換を行い、支援力を磨き、多様な団体支援に対応できる体制を整えた。又、ローテーション勤務により平日については4～6名、休祭日については2～3名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館1時間前の9時から対応。

○常勤 3名 非常勤 14名

2 意見聴取

「さぼらんて」への意見・要望を、随時聴取し、運営の参考とした。

○市民活動団体来所時及び相談対応時において聞き取り

○「さぼらんてだより」同封作業時に協力市民活動団体から聞き取り

○講座開催時の参加者アンケートによる把握

○ええやん新聞におけるモニタースタッフへのヒヤリング、読者アンケートを実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り

○団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り

3 情報交換会

「さぼらんて」設置者：山口市協働推進課と運営団体職員との意識共有のため、情報交換会を実

施。

①地域づくり支援センター職員も含めた情報交換会

○と き 4月15日(月) 13:15~14:30

○内 容 市民活動支援の背景

②山口市市民活動促進事業交付金の見直しに係るヒヤリング

○と き 11月8日(金) 10:00~12:00

○内 容 該当団体に声かけし、共にヒヤリング対応

③協働のまちづくり推進会議の中でさぼらんてを紹介

○と き 11月25日(月) 14:00~16:10

○内 容 市民活動支援の背景とさぼらんて業務の紹介

④新年度に向けて

○と き 2月26日(木) 12:30~16:00

○内 容 事業に振り返りと新年度に向けて

※その他、担当者や連携事業(協働セミナー、大交流会)においての打ち合わせ会を実施。

4 職員研修

(1) 外部研修(参加研修)

研修名	主 催	月日	場 所	参加
助成金セミナー	きらめき財団	5/12	カリエンテ山口	2名
NPO会計マニュアル(活動計算書)	やまぐち県民活動支援センター	6/7	パルトピア	2名
NPO会計基準の使い方	やまぐち県民活動支援センター	6/8	パルトピア	1名
新ビジネス創出セミナー~知的交配(=コラボ)とは?~	下関市産業経済部商工振興課	6/11	唐戸市場会議室	1名
ミーティングファシリテーション講座(NPO、中間支援スタッフ向け)	やまぐち県民活動支援センター	7/3	パルトピア	5名
ミーティングファシリテーション講座(コミュニティ団体向け)	やまぐち県民活動支援センター	7/4	パルトピア	1名
これがマスコミ戦略だ! プレスリリース実践講座	やまぐち総合研究所(有)	7/12	ニューメディア会議室	1名
NPOのための広報講座	やまぐち県民活動支援センター	9/7	パルトピア	1名
ワールドカフェ~カフェ的会話で本質を見つける~	山口青年会議所	9/7	山口県勤労者福祉文化会館	1名
山口ビジネス交配会	山口市商工振興課	10/2	小郡ふれあいセンター	1名
「伝えるコツ」セミナー	北九州市市民活動サポートセンター	10/26	八幡西生涯学習総合センター	1名
NPOと税金あれこれ	やまぐち県民活動支援センター	11/1	パルトピア	2名
売れるチラシDMの作り方	山口商工会議所	11/7	山口商工会議所	2名
認定NPO穂人になろう	やまぐち県民活動支援センター	11/8	パルトピア	2名
支援力・地域力パワーアップ研修(基礎編)	やまぐち県民活動支援センター	11/7	防府市地域協働支援センター	2名
支援力・地域力パワーアップ研修	やまぐち県民活動支援センター	12/9	防府市地域協働支援センター	1名

NPOマーケティングフォーラム	草莽塾 福岡事務局	12/14	福岡電気ビル共創館カンファレンス	1名
事務局力アップ講座～初級編～	やまぐち県民活動支援センター	12/14	パルトピア	3名
事務力アップ講座～中級編～	やまぐち県民活動支援センター	12/15	パルトピア	1名
県立大学～地域実習Ⅰプレゼン～	県立大学国沙文化学科安溪ゼミ	12/17	県立大学	1名
助成金の報告書の作成に役立つ会計講座	防府市市民活動支援センター	1/30	防府市地域協働支援センター	1名
ファンドレイジング JAPAN	NPO 法人ファンドレイジング・日本	2/1・2	国際ファッションセンター	1名
地域づくりの達人道場	NPO法人市民プロデュース	2/11	山口県総合保健会館	3名
選考委員は何を見る？助成金申請のコツ	山口きらめき財団	2/21	山口県社会福祉会館	1名

※その他、山口市の交付金説明会、応募団体プレゼンテーション会、報告会、共同募金申請説明会などにも研修の一環として参加。

Ⅳ 今後に向けて

山口市市民活動支援センターさぼらんてには、法人格を持つ非営利組織からボランティアサークル、生涯学習系グループまで様々な地域社会にとって有意義な団体の登録があります。求められる支援も様々な中、受託4期目は、①幅広い市民活動の情報発信力の強化②非営利組織のマネジメント力の強化③ホームページへの情報集積の3つを重点項目として支援してきました。

平成24年度の山口市のまちづくりアンケートによると、ボランティア・NPO活動をしている人は、11.3%とここ数年横ばい状態です。しかし「(ボランティア・NPO活動に)機会があれば活動してみたい人」は37%にも上ります。この市民活動予備軍ともいえる人たちを対象に、ホームページへの市民活動情報の集積や市民目線のカジュアルでおしゃれな広報紙の発行により、身近な市民活動に見える化し、市民意識の啓発にも力を入れました。

また、改正NPO法により、社会変革への役割が明確になってきたNPO法人ですが、介護サービスや行政からの指定管理などの委託事業が主な事業収益となっており、寄附など本来の課題解決に使える自由な財源確保が思うように進んでいないNPO法人も多くあります。山口市のNPO法人の合計収入額の寄附の占める割合も1%余りと、まだまだ寄附集めに対する意識は薄いと感じています。そこで平成25年度は「企業×NPOの寄附つき商品プロジェクト支え人。」を立ち上げ、企業とNPOの連携による、地域社会全体の巻き込みのしくみづくりにも取り掛かりました。

今後も山口市の社会貢献の輪を広げることができるよう、団体に寄り添いながら情報発信力の強化とNPOのマネジメント力の強化を関係者・機関とも連携しながら、山口市方式の市民活動活性のための支援を展開していきます。